



Source: CQG, Inc. © 2006 All rights reserved worldwide.

先週相場概況

12日

ドル円は安く始まった日経平均株価が持ち直したことで一時114.21円と10月4日以来の高値をつけたものの、その後は伸び悩んだ。海外時間に入ると株安が目立つなか、113.60円台まで上値を切り下げた。

13日

ドル円は日経平均株価が780円超安まで下げたことをながめ、一時113.58円まで値を下げた。その後は米中貿易関係の改善期待を背景に114.15円まで反発する場面もあったが、12日高値が意識されると、対欧州通貨でドル安が進んだ影響もあって伸び悩んだ。

14日

ドル円はしばらく113.90円を挟んだもみ合いとなっていたが、NY勢の参入後はダウ平均の下落や米長期金利の低下を受けて113.30円まで売りに押された。もっとも、「EU離脱協定の暫定合意案を英閣議で了承」と伝わると、株価の下げ渋りとともに113.60円台まで下げ幅を縮小した。

15日

英政局の不透明感を手掛かりにポンド円が下落すると、ドル円もつれて売りに押された。米長期金利の低下やダウ平均の下落も重しとなり、一時113.10円まで下押し。もっとも、一巡後はダウ平均が持ち直したことで113.71円まで買い戻された。

16日

ドル円は日本株安を背景にアジア時間から売りに押された。海外時間に入ってもFRB高官から世界経済に対して悲観的な見方が示されたことで売りの流れが継続。一時112.64円まで売りに押される場面も見られた。

総括

先週のドル円は軟調に推移した。週明け12日は安く始まった日経平均株価が持ち直したことで一時114.21円と10月4日以来の高値をつけたものの、その後は上値を切り下げる展開に。翌13日には日経平均株価の780円超などを背景に113.58円まで下押し。14日の海外時間にはダウ平均の下落や米長期金利の低下を受けて113.30円まで値を下げた。翌15日はポンド円が英政局の不透明感を手掛かりに下落したことにつれて、一時113.10円まで売りに押された。その後は113.71円まで買い戻される場面もあったが、週末16日には売りが再開。FRB高官が世界経済に対して悲観的な見方を示すと、米金利の低下とともに全般ドル安が進んだ流れに沿って一時112.64円まで値を下げた。

先週の注目された経済指標結果

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	改定値	予想値	結果
14日	08:50	水	JPY	GDP速報値	前期比	7-9月期	0.7%	0.8%	-0.3%	-0.3%
14日	16:00	水	DEM	GDP速報値	前期比	7-9月期	0.5%		-0.1%	-0.2%
14日	19:00	水	EUR	GDP改定値	前期比	7-9月期	0.2%		0.2%	0.2%
14日	22:30	水	USD	CPI	前月比	10月	0.1%		0.3%	0.3%
15日	08:00	木	USD	FRB議長講演	*	*	*	*	*	*
15日	22:30	木	USD	小売売上高	前月比	10月	0.1%	-0.1%	0.5%	0.8%
16日	19:00	金	EUR	HICP改定値	前年比	10月	2.2%		2.2%	2.2%

一言コメント・・・先週はブレグジットやイタリア財政問題、米中貿易摩擦関連に注目が集まり、指標への反応は限定的でした。ただ、指標全体を見ると米国は良好、欧州は低調な数字が目立ちました。

先週の注目された要人発言

- 12日16:36 ファリハ・サウジアラビア・エネルギー相「10月の水準から日量100万バレルの減産が必要と見込む」
 13日01:18 英首相報道官「バルニエ首席交渉官についてのFT紙報道には懐疑的」
 13日03:28 トランプ米大統領「サウジやOPEC諸国は原油の減産をすべきではない」「原油価格は更に下がってもよい」
 13日04:51 デイリー米サンフランシスコ連銀総裁「漸進的な金利正常化を支持」
 13日06:23 メイ英首相「ブレグジット交渉は現在、大詰めを迎えている」「ブレグジット交渉は極めて厳しい」
 13日18:38 ラーブ英EU離脱担当相「ブレグジット(英国の欧州連合からの離脱)交渉の進展に自信がある」
 15日05:22 バルニエ英EU離脱・欧州委員会首席交渉官「移行期間は期限を限定し延長することが可能」「アイルランド国境問題でハードボーダーを避ける解決法をみつけた」
 15日08:13 パウエルFRB議長「経済の状態にとっても満足している」「経済が引き続きポジティブな方向に進む正当な理由がある」「経済界では懸念を表明しているが、FRBは通商論争での影響は今のところあまり見えていない」
 16日03:13 ポスティック米アトランタ連銀総裁「利上げは慎重に進めるべき」「経済データを注視しながら政策金利を決定」
 16日05:06 ロス米商務長官「米国は依然として来年1月に対中関税を25%に引き上げる」
 16日05:21 カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁「経済が過熱している兆しは見られない」「インフレが加速すればいつでも利上げは可能」

一言コメント・・・先週はブレグジット関連の発言が相次ぎました。今週はメイ英首相に対する党首信任投票に絡んだ発言などに注意が必要です。また、イタリアについても引き続き注視していきたいところ。

今週の経済指標

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	改定値	予想値
20日	22:30	火	USD	住宅着工件数	年率換算	10月	120.1万件		123.0万件
21日	22:30	水	USD	耐久財受注	前月比	10月	0.8%	0.7%	-2.5%
21日	24:00	水	USD	中古住宅販売件数	年率換算	10月	515万件		520万件
22日	08:30	木	JPY	コアCPI	前年比	10月	1.0%		1.0%
22日	21:30	木	EUR	ECB理事会議事要旨	*	*	*	*	*
22日	未定	木	ZAR	SARB政策金利	*	*	6.50%		6.75%
23日	22:30	金	CAD	小売売上高	前月比	9月	-0.1%		0.0%

今週の注目は・・・南ア政策金利

GIweekly今週のマーケットポイント [会員専用版]は

『ひまわりFX WEB/PRO』にログイン後
「マイページ」にてご覧いただけます。

- 今週のドル円相場見通し
- 今週のGI24コメンテーターの一言
 - 荻野金男
 - 和田仁志
- 今週の注目経済指標
- 今週のテクニカルポイント
- 先週のコメント
 - 今井雅人
 - 越後屋の小言

情報提供元：株式会社DZHフィナンシャルリサーチ

株式会社DZHフィナンシャルリサーチより提供している情報（以下「情報」といいます。）は、情報提供を目的とするものであり、特定通貨の売買や、投資判断ならびに外国為替証拠金取引その他金融商品の投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はあくまでお客様ご自身の判断と責任において行ってください。また、予告なしに内容を変更することがありますのでご注意ください。商用目的で情報の内容を第三者へ提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容によって生じた如何なる損害についても、（株）DZHフィナンシャルリサーチは一切の責任を負いません。